

# 生産割当廃止を迎えた EUの砂糖産業の動向



平成30年3月14日 alicセミナー  
（独）農畜産業振興機構  
調査情報部 佐々木 由花

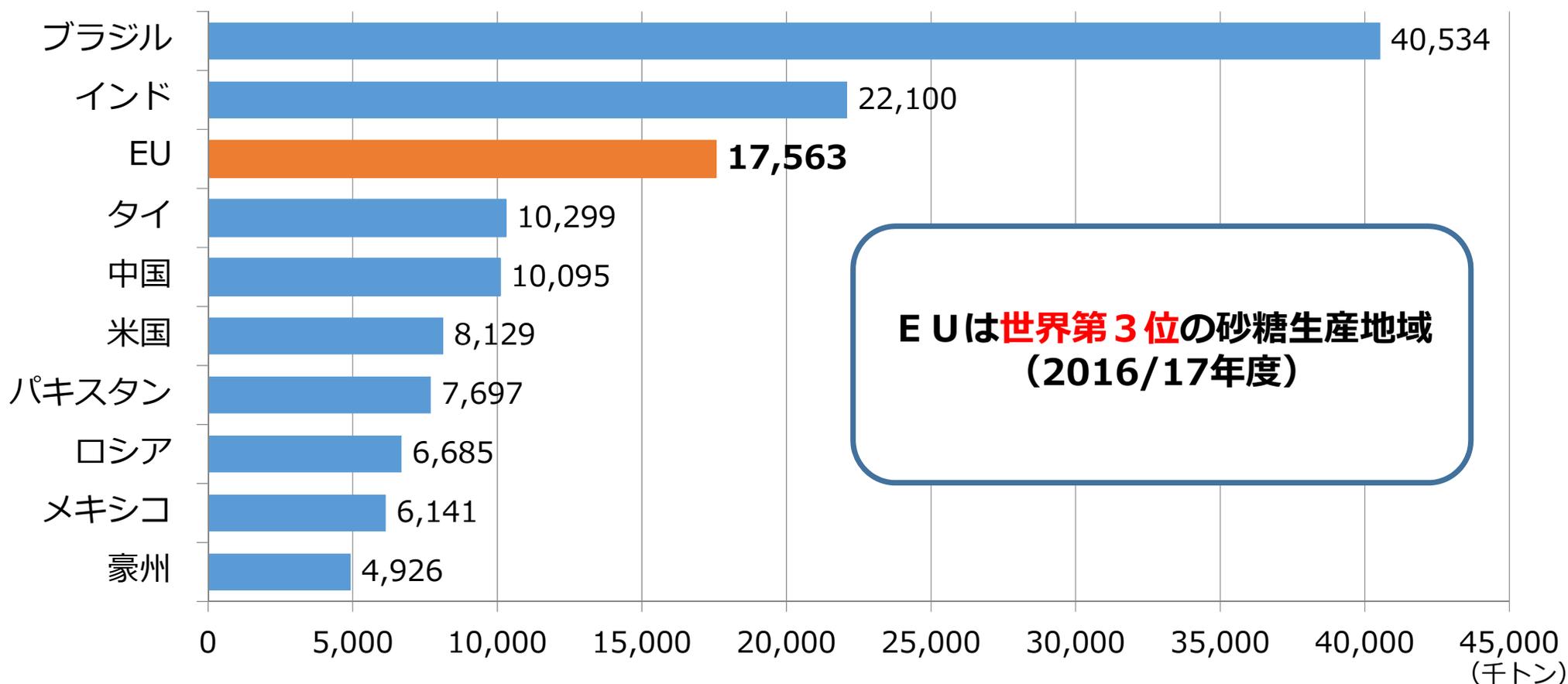
# 本日の内容

1. E Uの砂糖生産と政策
2. 生産割当廃止の影響と需給見通し
3. 主要生産国の動き ～ E U生産第3位 ポーランド～
4. 糖類を含む飲料に対する課税
5. まとめ

断りがない限り、本資料中の砂糖年度は10月～翌9月、砂糖の数量は白糖換算。  
為替レートは1ユーロ=133円、1ズロチ=33円（2018年2月末日TTS相場）を使用。

# 1 E Uの砂糖生産と政策

# 世界の砂糖需給におけるEUの位置（生産量）



資料：Agra CEAS「World Sugar：Supply Balances and Policy Trend Analysis, December 2017」

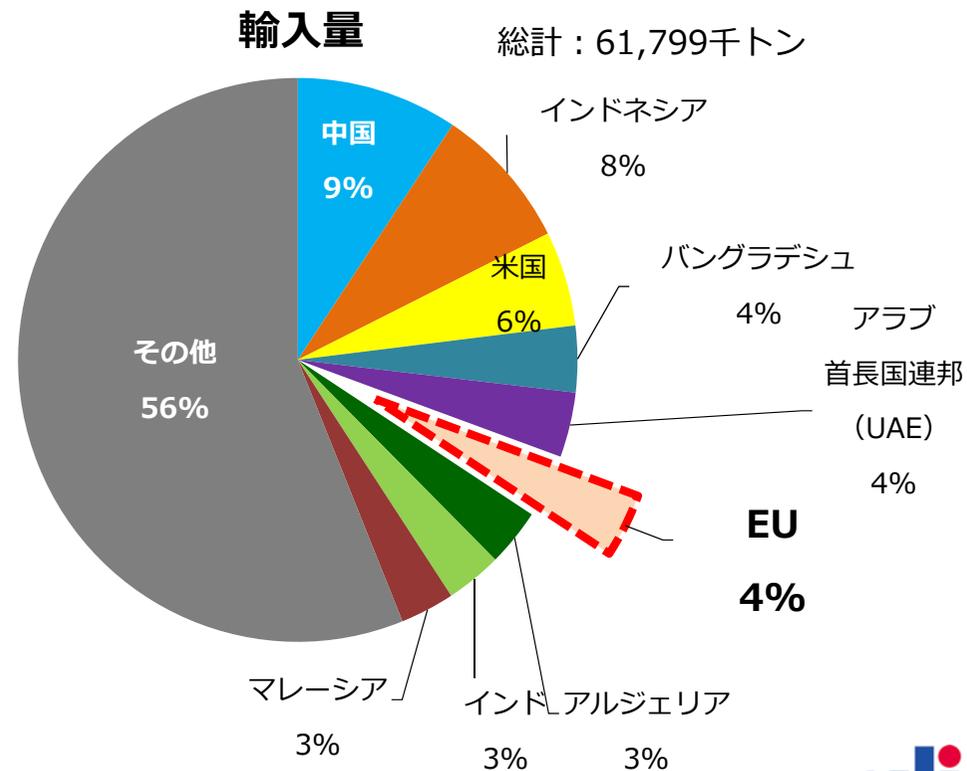
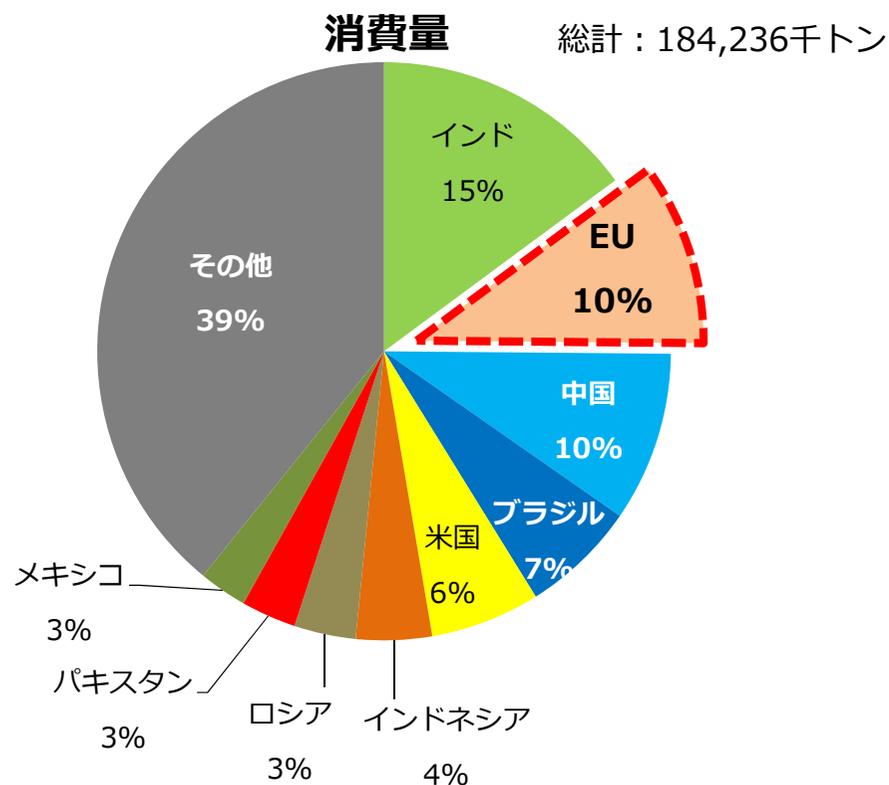
注1：2016/17年度の予測値を基に作成。

注2：各国の砂糖年度。

# 世界の砂糖需給におけるEUの位置（消費量&輸入量）



砂糖消費量は世界第2位、輸入量は世界第6位



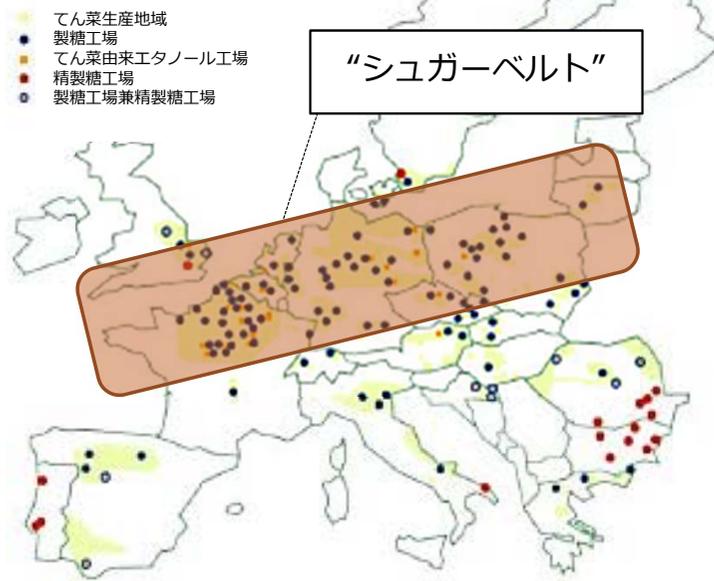
資料：Agra CEAS Consulting 「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis , December 2017」  
 注：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

# 主要生産地域

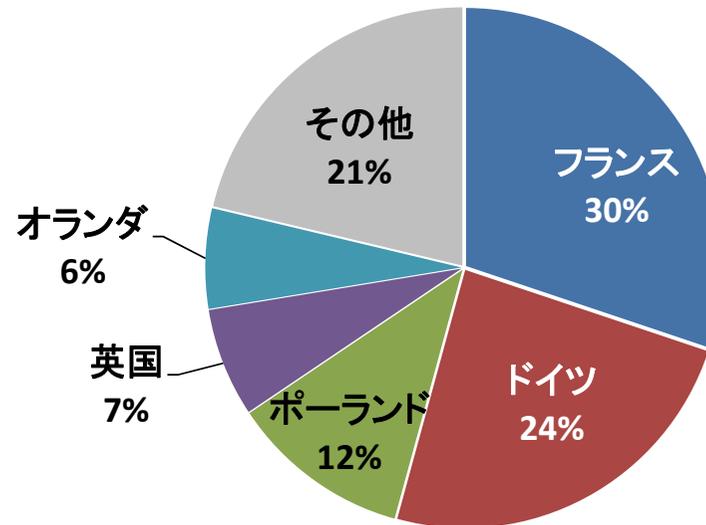


- シュガーベルトとよばれる地域に生産が集中
- 上位5カ国でEU全体の約4分の3の砂糖を生産

主要生産地域



砂糖の国別生産割合(2017/18年度)



種まきから約半年後に収穫されたてん菜

資料：欧州砂糖製造者協会（CEFS）

資料：欧州委員会の資料を基に機構作成  
注：2018年1月時点の予測値。

# 砂糖需給



- 生産量：2016/17年度はフランス、ドイツ、ポーランド、オランダで増加(前年度比11.7%増)
- 消費量：1900万トン程度で横ばいに推移
- 輸入量：生産量の増減によって変動（アフリカ、カリブ、大洋州〈ACP〉や後発開発途上国〈LDC〉からの輸入が約5割）
- 輸出量：輸出制限に伴い2012/13年度以降、130万トン程度で推移

砂糖の需給動向

(単位：千トン)

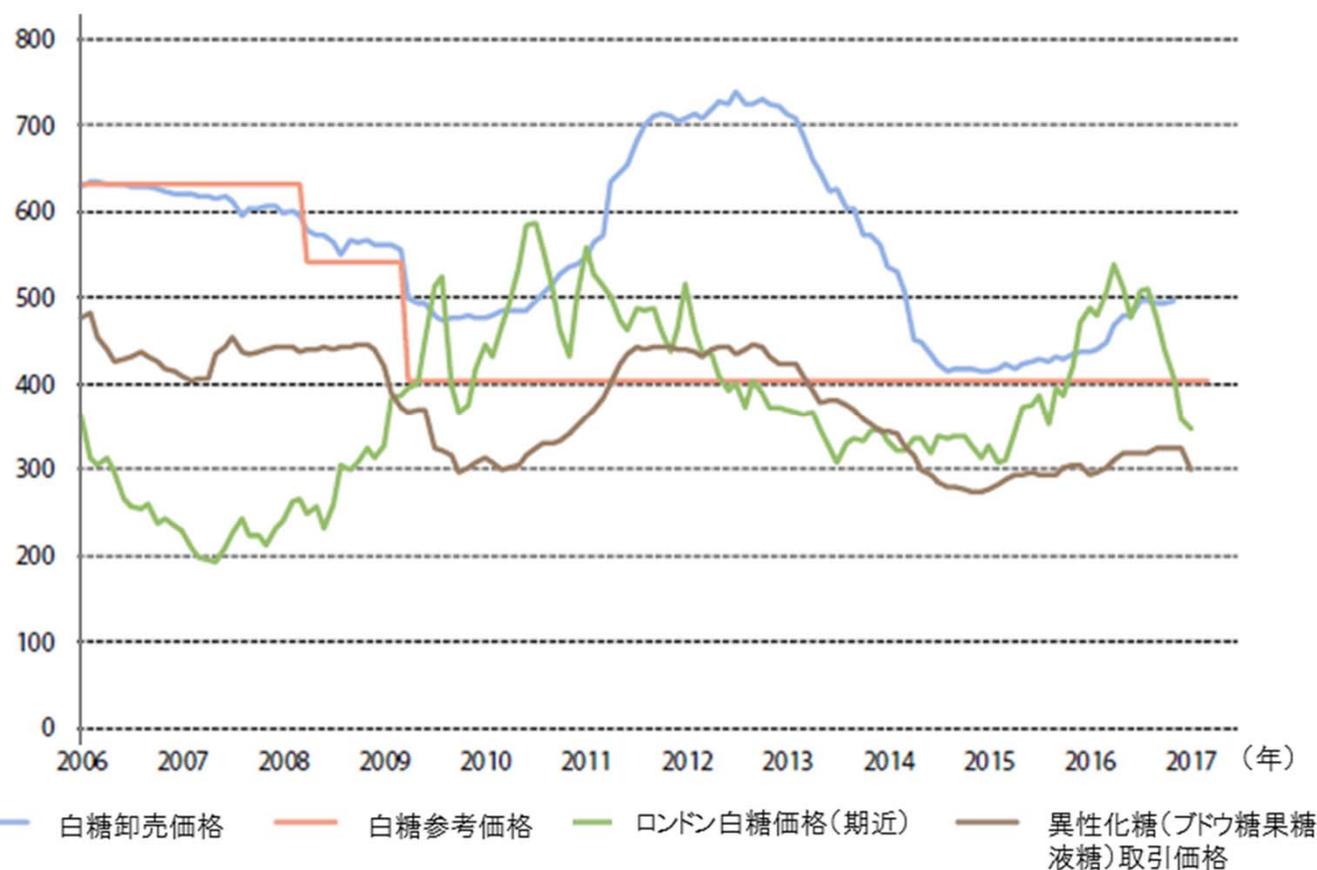
年度		2011/12	2012/13	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17
てん菜生産量		117,787	105,387	104,413	125,074	94,165	105,164
砂糖	生産量	18,957	17,534	16,732	19,512	14,935	16,841
	輸入量	3,324	3,570	3,106	2,738	2,857	2,305
	消費量	19,051	19,032	19,073	19,451	18,524	18,505
	輸出量	2,051	1,301	1,361	1,379	1,334	1,275
	期末在庫量	2,397	3,169	2,573	3,994	1,928	1,294

資料：欧州委員会の資料を基に機構作成  
注：2016/17年度は推計値。

# 砂糖価格の動向



(ユーロ/トン)



- 2010/11年度以降、在庫量が低水準のため上昇
- 2012/13年度後半は供給量増加に伴い下落
- 2016/17年度はロンドン白糖価格の上昇に連動するように再び上昇

2016/17年度の域内砂糖価格は  
**1トン当たり約500ユーロ**  
(6万6500円) **で推移**

資料：LMC International

注：白糖卸売価格は、生産割当内の白糖の平均卸売価格。

# 砂糖政策① ～生産割当の廃止～



- 1968年、生産調整および供給管理を目的に生産割当を導入
- 2013年改革で、**国際競争力の強化**を目的に、**2017年9月末の廃止**が決定  
併せて**輸出制限も撤廃**

2017/18砂糖年度以降の主な砂糖関連政策

廃止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 砂糖の生産割当</li> <li>・ 砂糖の輸出上限</li> <li>・ てん菜の最低取引価格</li> </ul>
継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ てん菜生産に対する直接支払い</li> <li>・ てん菜生産に対する任意カップル支払い（加盟国が任意で実施）</li> <li>・ てん菜取引に係る生産者と製糖企業間の契約</li> <li>・ 砂糖の民間在庫補助と参考価格の設定（域内需給調整のため、企業が砂糖を保管する場合に係る経費の一部を補助）</li> <li>・ 輸入制限（関税割当、枠外関税およびセーフガード条項による追加関税）</li> <li>・ 欧州委員会による域内砂糖取引価格などの監督</li> </ul>
新規	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 砂糖市場観測サイトの開設</li> </ul>

資料：欧州委員会などの資料を基に機構作成

## 砂糖政策② ～継続する政策～



### 任意カップル支払い

経済的、社会的または環境上重要な一部の品目について、生産者への直接支払い

➡ てん菜を重要な品目とする国が、生産者へ支払い（各加盟国の裁量）

- 実施国：ポーランド、チェコ、スペイン、フィンランド、クロアチア、ハンガリー、ギリシャ、イタリア、ルーマニア、スロバキアの計**10**カ国。
- 予算額：1億7799万ユーロ（236億7267万円）（2017年時点）

### 生産者の収入補償の一つ

生産割当廃止前は、生産割当用として契約されたてん菜栽培面積に基づき支払い額を算出

➡ 生産割当廃止後は実栽培面積の拡大により支払い単価は減少か

## 砂糖政策② ～継続する政策～



### ➤ 民間在庫補助

域内砂糖価格が参考価格の85%を下回る状況が2カ月以上続くと見込まれた場合  
⇒市場の出回り量を抑制するため、製糖企業に対して砂糖の保管経費の一部を補助

### ➤ 参考価格

- 域内需給の均衡を保つため、民間在庫補助発動の基準価格として2006年から導入
- 白糖1トン当たり：404.4ユーロ（5万3785円〈2009/10年度以降〉）



需給調整政策を存続させることで、  
需給と価格の安定・急激な砂糖価格の変動の防止を図る

# 砂糖政策③ ～新規～



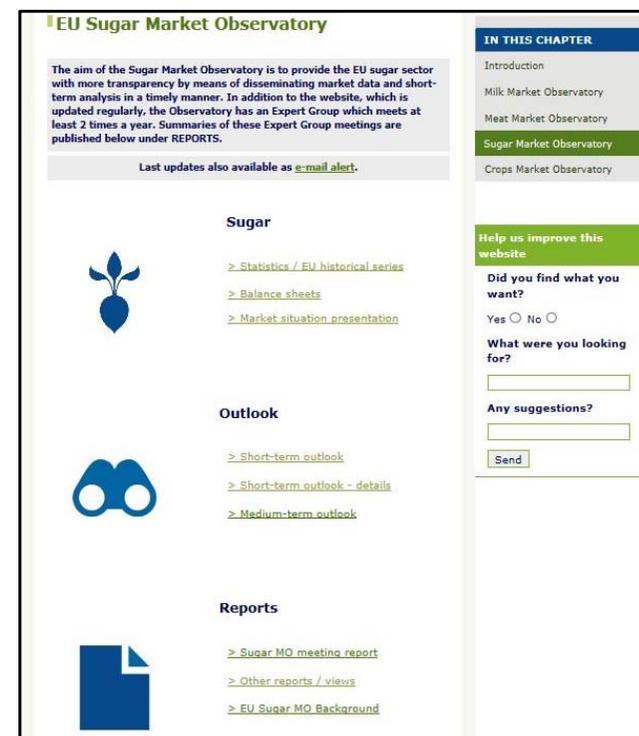
## ➤ 砂糖市場観測サイト（Sugar Market Observatory）の開設

- 砂糖の価格、生産および貿易に関する情報の定期的な公表
- 短期・中期需給見通しの公表
- 専門家による短期需給分析を提供

市場の透明性の向上、市場の動向を読み取る一助に

（参考）砂糖市場観測サイト

[https://ec.europa.eu/agriculture/market-observatory/sugar\\_en](https://ec.europa.eu/agriculture/market-observatory/sugar_en)



砂糖市場観測サイトのトップページ（欧州委員会HPから）

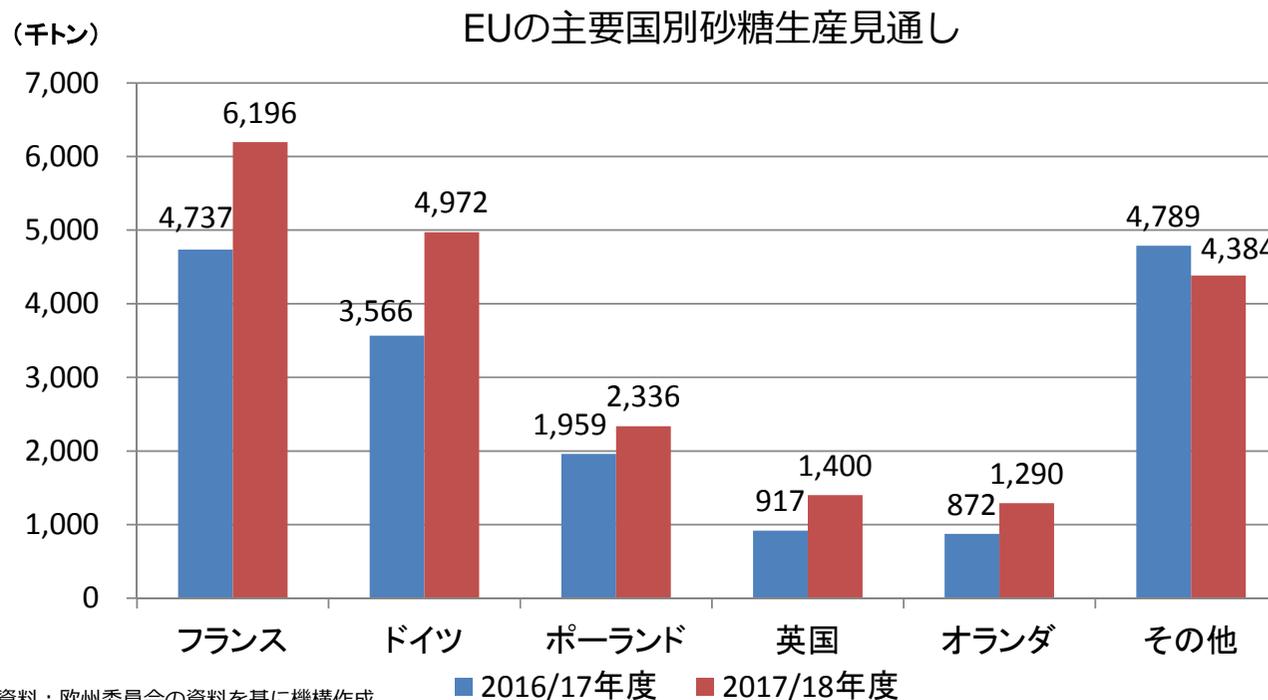
## 2 生産割当廃止の影響と 需給見通し

# 需給見通し（2017/18年度）①



## 砂糖生産量

生産割当の廃止により増産（前年度比25.0%増）の見込み  
…フランス（同31.9%増）、ドイツ（同47.6%増）、英国（同49.4%増）で  
積極的な増産の動き



資料：欧州委員会の資料を基に機構作成

注1：2016/17年度は推計値、2017/18年度は予測値。

注2：2018年1月時点。



# 需給見通し（2017/18年度）②

## 砂糖輸出入

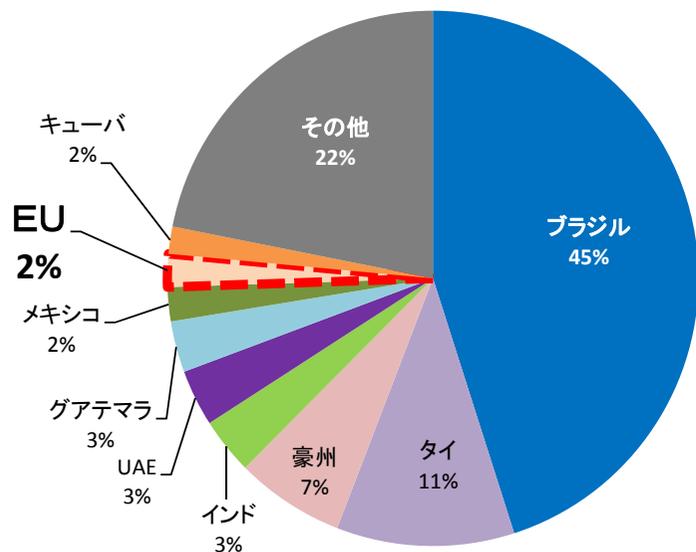
### ➤ 輸入量

砂糖生産量の大幅な増加に伴い、大幅減（前年度比46%減）の見込み

### ➤ 輸出量

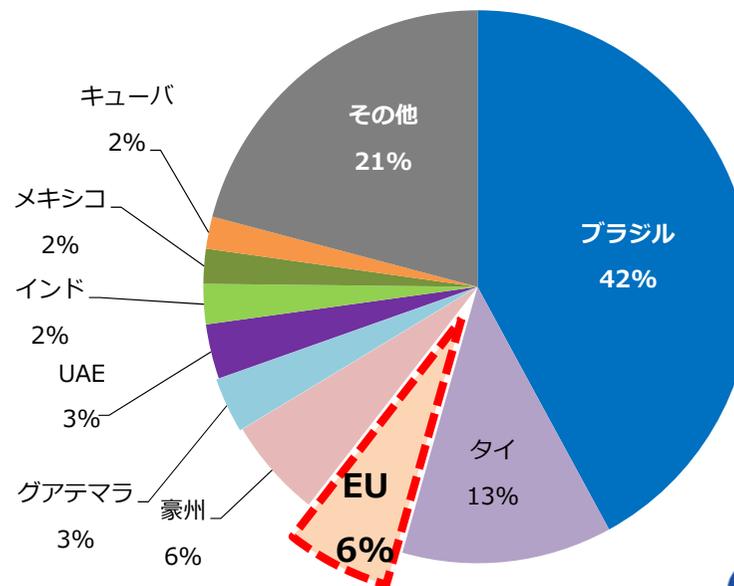
輸出制限撤廃と増産に伴い、**大幅増(同2.3倍)**の見込み

2016/17年度



砂糖輸出量は  
**大幅に増加**  
する見込み  
(2017/18年度)

2017/18年度





# 需給見通し（中長期見通し）

## 砂糖生産量

2018/19年度に減少。その後は減少傾向で推移

⇒2030/31年度には1888万トン（2016/17年度比12.0%増）の見込み…生産割当廃止前との比較ではかなりの増加の見込み

## 砂糖輸出量

輸出量は、260～280万トン前後（2016/17年度比 2倍程度）で推移の見込み …EUは純輸出国となる見込み

砂糖の需給見通し

（単位：千トン、%）

年度	2016/17	2017/18	2016/17年度比					2030/31	2016/17年度比
			2018/19	2019/20	2020/21	2030/31	2016/17年度比		
てん菜生産量	111,791	130,568	16.8	129,491	127,672	125,967	118,436	5.9	
生産量	16,847	20,484	21.6	19,979	19,738	19,513	18,875	12.0	
輸入量	2,307	1,250	▲ 45.8	1,285	1,359	1,391	1,347	▲ 41.6	
消費量	18,437	18,464	0.1	18,432	18,350	18,271	17,478	▲ 5.2	
輸出量	1,300	3,005	131.0	2,817	2,753	2,640	2,645	103.4	

資料：欧州委員会の資料を基に機構作成

注1：2016/17年度は推計値、2017/18年度以降は予測値。

注2：2017年12月時点での予測値。

# 業界の反応（1） C E F S / C I B E



## C E F S（欧州砂糖製造者協会）・ C I B E（欧州てん菜生産者協会）

- 糖類摂取と健康に関する問題が議論される中で域内砂糖消費量の増加は見込まれにくい  
⇒砂糖産業にとって**試練の時期**
- **製糖効率の向上**・**製糖期間の延長** ⇒一層の生産性向上に向けた取り組みによって利益を確保  
⇒**今後10年は増産**を見込む
- 域内の世界的企業による**マーケティング戦略**において、域外産との競争に打ち勝てるか ⇐ **需要拡大の鍵**
- E Uの砂糖産業は農村社会の主要産業（2万8000人の直接雇用者と13万7000人の生産者）のため重要
- **欧州てん菜糖持続可能性パートナーシップ**（E U B S S P）の立ち上げ（2013年）  
雇用など社会的な課題も含めた持続可能な砂糖生産に向けた優良な取り組みの体系的なまとめと共有  
⇒危機的状況に陥った場合でも克服を図る
- **民間在庫補助（セーフティネット）の適切な運用**
- サプライチェーン全体の利益享受のため、**市場の透明性向上**

欧州委員会へ求める

# 業界の反応（２） C I U S / Starch Europe



## C I U S（欧州砂糖実需者委員会）

…欧州の食品・飲料製造事業者（1万5000社）を代表し、欧州委員会へ意見の申し入れなどを行う委員会

- 価格競争の激化により**実需者の選択肢が増える**ことはメリット
- **製糖企業の在庫量の開示・砂糖卸売価格の公表頻度の増加**を欧州委員会へ求める
- 自由貿易協定締結などによる**輸入アクセス拡大を期待**（低関税または無税の関税割当の追加・既存の輸入関税の削減）  
ACP（アフリカ、カリブ、大洋州）とLDP（後発開発途上国）諸国の対EU輸出量の減少が見込まれるため
- 割当廃止後も継続する粗糖輸入への各種制限は、不釣り合いな枠組み  
⇒ 甘しや糖精製企業とてん菜糖企業の公平な競争のため、早く是正されるべき

## Starch Europe

- でん粉関連製品企業の工場は現在の生産能力まで**異性化糖生産を最大化**させると見込む
- 異性化糖生産量は200万～300万トンへ増加を見込む（5年以上先を目途）
- 異性化糖輸出には砂糖に比べコストがかかるため、  
生産割当廃止後の増産分 ⇒ **砂糖：域外輸出** **異性化糖：域内向け** …両者のすみ分けを期待
- 砂糖の代替としての異性化糖利用は各企業の方針次第（製品レシピ変更による味の変化などのリスク）

# 輸出拡大取り組み① (EUROPORTS社 概要)



## 企業概要

- ▶ 立地：ベルギー アントワープ港（シュガーベルトの中心に位置）
- ▶ 製糖企業から独立した輸出ターミナルとしてはEUで最大規模の輸出ターミナルを運営
- ▶ 従業員40名（製糖期：60名）
- ▶ 取扱量（てん菜糖）のうち8割以上が域外向け輸出

## 業務概要

- ▶ てん菜糖の搬入（トラックまたは鉄道）・袋詰め・保管・船積み
- ▶ トレーサビリティに対応した倉庫の整備・袋詰めの実施  
⇒衛生管理の徹底
- ▶ フランス ル・アーブル港のターミナルへも投資  
⇒輸出体制の強化



トレーサビリティシステムを整備した倉庫  
(保管能力10万トン)

# 輸出拡大取り組み② (EUROPORTS社 輸出港の拡大)



## 生産割当廃止後の見通し

- 異性化糖の増産分が域内市場へ⇒砂糖増産分は域外輸出へ  
…さらなる輸出増加に期待
- 砂糖増産により（シュガーベルトの中心に位置する）  
同港へのニーズが高まると期待  
⇒てん菜糖取扱量はおよそ3倍に増加すると見込む

## 対応状況

- 約3000万ユーロ（39億9000万円）を投資し、

搬入容量・設備を拡張

- コンベアの増設

- 倉庫の保管能力を26万トンへ増強

- ・トラックの搬入スペース  
…3台⇒7台分へ
- ・鉄道搬入時の地下の受け入れタンク  
…2車両分へ



搬入用貨物列車  
(引込み線でターミナル内へ直接乗り入れられる)



トラック搬入スペース

# 輸出形態（EUROPORTS社）



**輸出形態①BIBO**  
(バルク・イン・バルク・アウト)  
袋詰め機能が整備された船舶(主に  
アフリカ向け)に、てん菜糖を  
直接積載する



**輸出形態②バルクコンテナ**  
閉鎖された倉庫内までコンテナが  
コンベア上を移動  
→コンテナ内のインライナー  
(コンテナサイズの袋)にてん菜糖  
が全自動で充填



**輸出形態②バルクコンテナ(内部)**  
ビニール袋がインライナー

# 輸出形態（EUROPORTS社）



**輸出形態③TOBOGAN**  
(日本語で「滑り台」の意味)  
滑り台方式で50kg袋を連続積載  
(積載量2万5000トンの船舶への  
積載作業に3週間程度を要す)



**輸出形態④コンテナへの積載**  
ベルトコンベア方式で、作業員が  
調整しながら積載  
50kg袋を1コンテナ当たり最大480  
袋積載可能



**輸出形態④積載後のコンテナ**

# 3 主要生産国の動向

## E U 砂糖生産第 3 位 ポーランド

# なぜポーランドか



## ポーランド

- ポーランドのてん菜糖生産量は**域内第3位**
- 上位2カ国に比べ情報量が少ない
- 経営体は小規模農家が中心

E U主要国のてん菜糖生産動向（2015/16年度）

	フランス	ドイツ	ポーランド	英国	オランダ
てん菜生産者数（戸）	26,000	28,509	34,243	2,995	8,007
てん菜収穫面積（h a）	349,600	282,700	171,430	74,200	58,579
1戸当たりのてん菜収穫面積（h a/戸）	13	10	5	25	7
てん菜糖生産量（トン）	4,295,763	2,942,281	1,460,371	977,780	788,639
製糖工場数（工場）	25	20	18	4	2
平均工場稼働日数（日/年）	98	92	81	125	99

資料：欧州砂糖製造者協会（C E F S）の資料を基に機構作成

注1：てん菜糖生産量上位5カ国。

注2：1戸当たりのてん菜収穫面積は、収穫面積を生産者数で除して算出。

注3：てん菜糖生産量は、白糖換算。

# てん菜生産概要

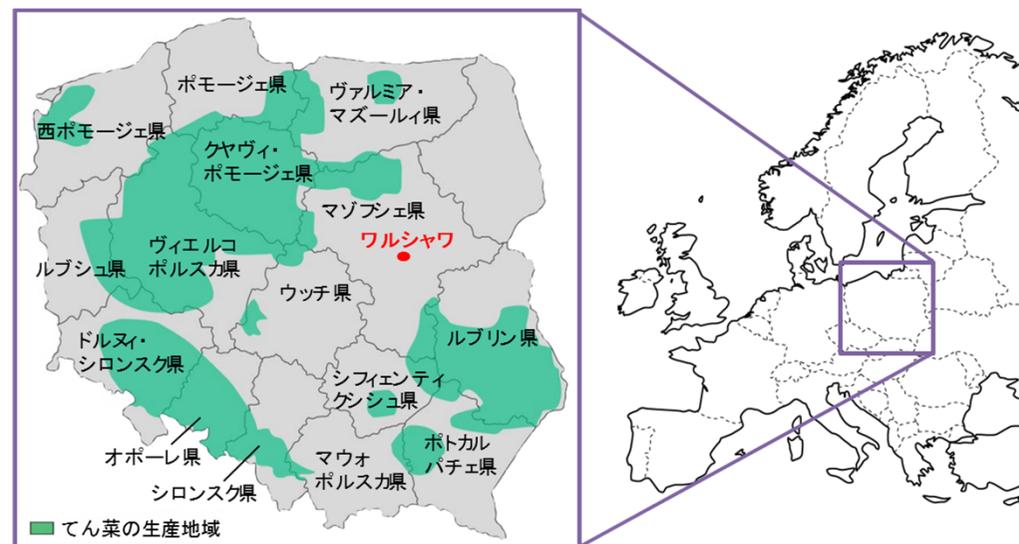


- 国土面積：日本の約5分の4(農用地が約5割)
- 耕地：中西部・西南部・東南部で広く生産
- 経営体：小規模農家が多い

## 栽培暦

- 3～5月初旬ごろに圃場へ直接播種  
→9月から翌1月ごろに収穫
- 小麦やトウモロコシ、菜種、ばれいしょなどの輪作が一般的

ポーランドにおける主要てん菜生産地域



資料：全国てん菜生産者協会の資料を基に機構作成

栽培暦

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
		はしゅ 直接播種							収穫		
収穫											

資料：現地での聞き取りを基に機構作成

# 生産概要



## 製糖業界

➤ 90年代後半からの民営化の進展により、製糖工場は76 → 18工場へ

⇒ 2006年改革に伴う生産割当数量の削減により生産段階での規模拡大も進行

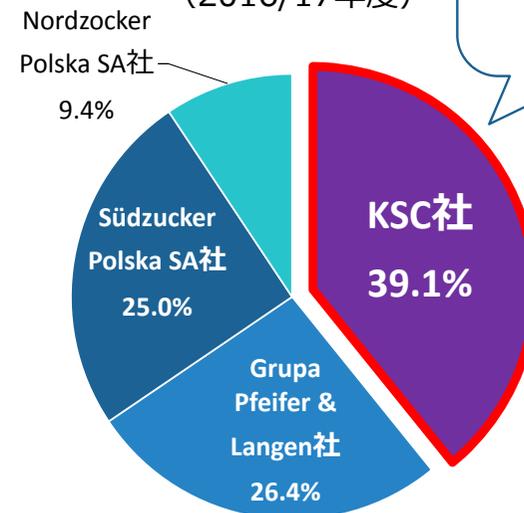
➤ 製糖企業4社がてん菜糖を生産（うち3社は外国資本）

てん菜生産者数と1戸当たりの栽培面積の比較

年	2005	2016
生産者数（戸）	70,700	34,071
1戸当たりの栽培面積(ha/戸)	4.05	6.06

資料：IAFEおよび全国てん菜生産者協会の資料を基に機構作成  
注：2016年は推計値。

製糖企業別生産割合  
(2016/17年度)



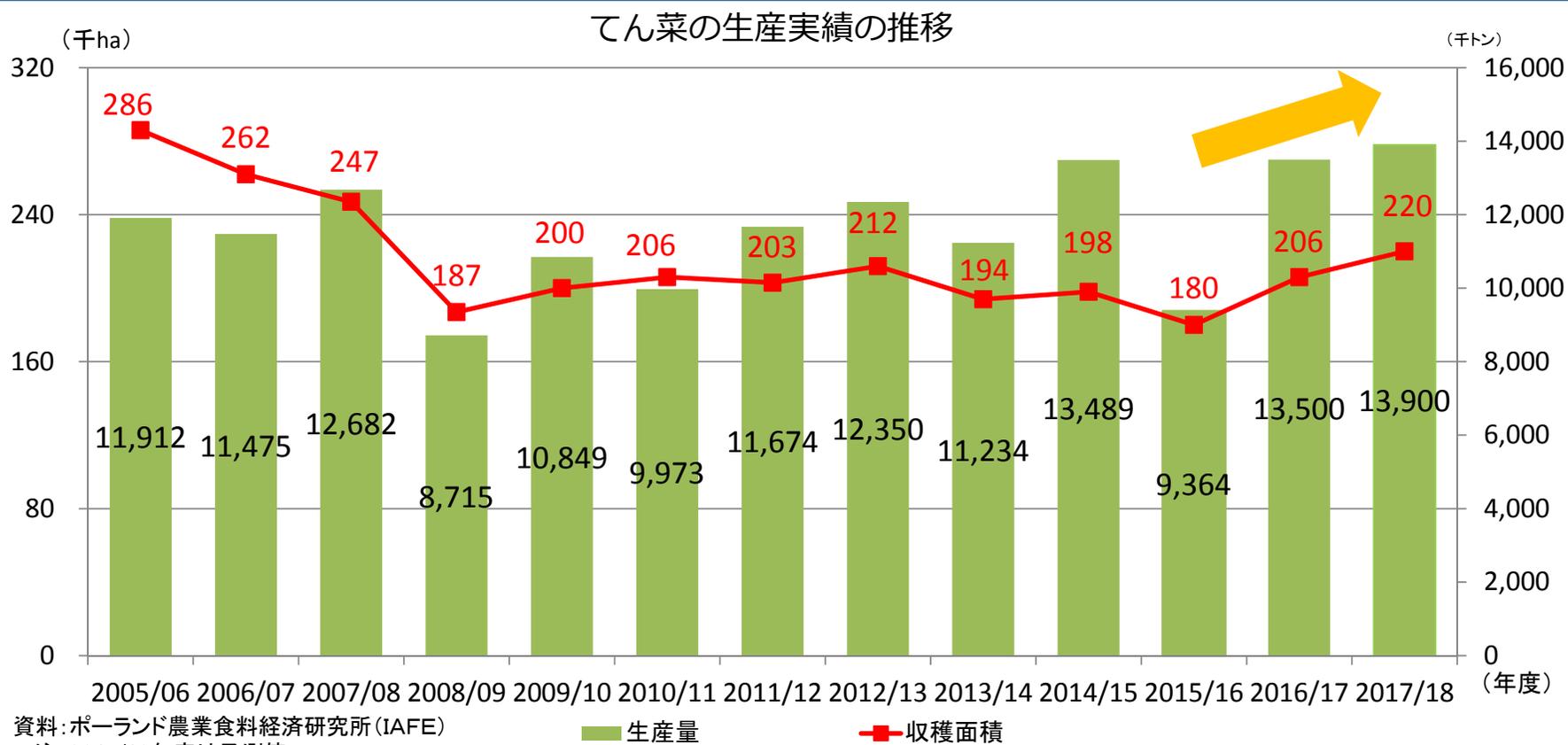
国内資本の  
企業はKSC社  
のみ

資料：全国てん菜生産者協会  
注：端数処置の関係により、  
図中の内訳の合計が100%にならない。

# てん菜生産動向



てん菜収穫面積は2006年改革以降、おおむね横ばいで推移  
生産割当廃止を見越した栽培契約の増加などにより2016/17年度以降、収穫面積・生産量ともに増加



# 砂糖の需給動向①（生産量）

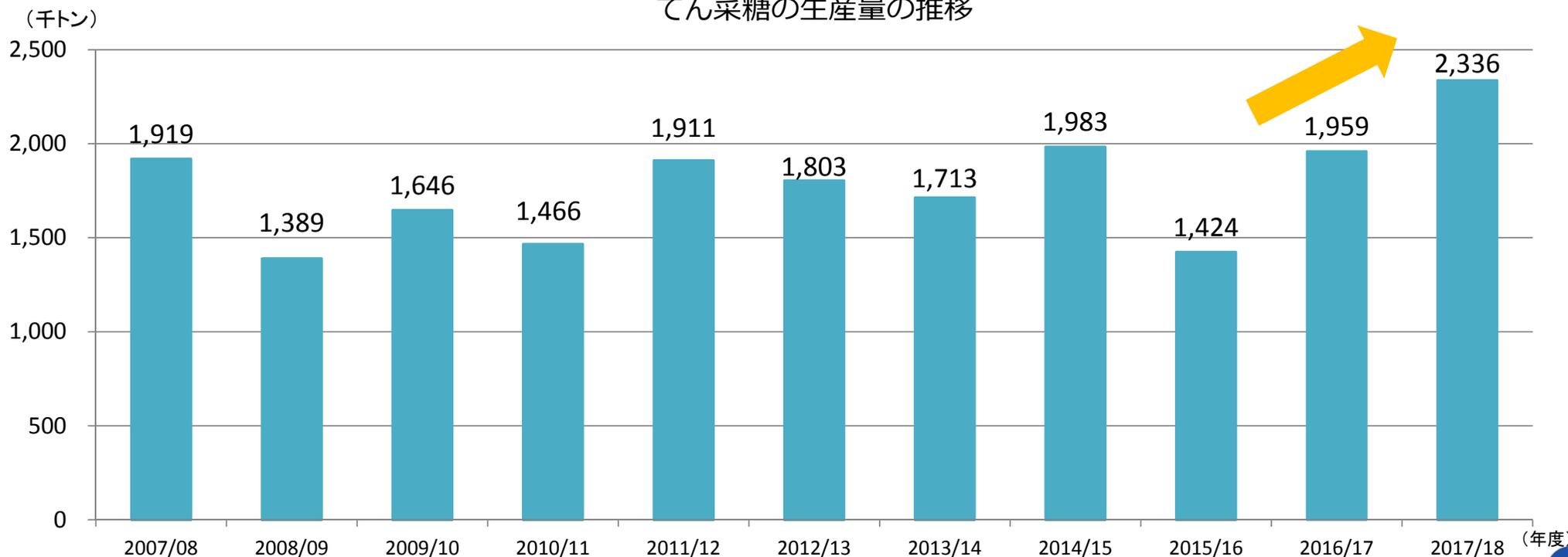


砂糖生産はてん菜生産量の増減に連動

2016/17年度は、

収穫面積およびてん菜生産量の増加と製糖歩留まりの向上により196万トン（前年度比37.6%増）

てん菜糖の生産量の推移

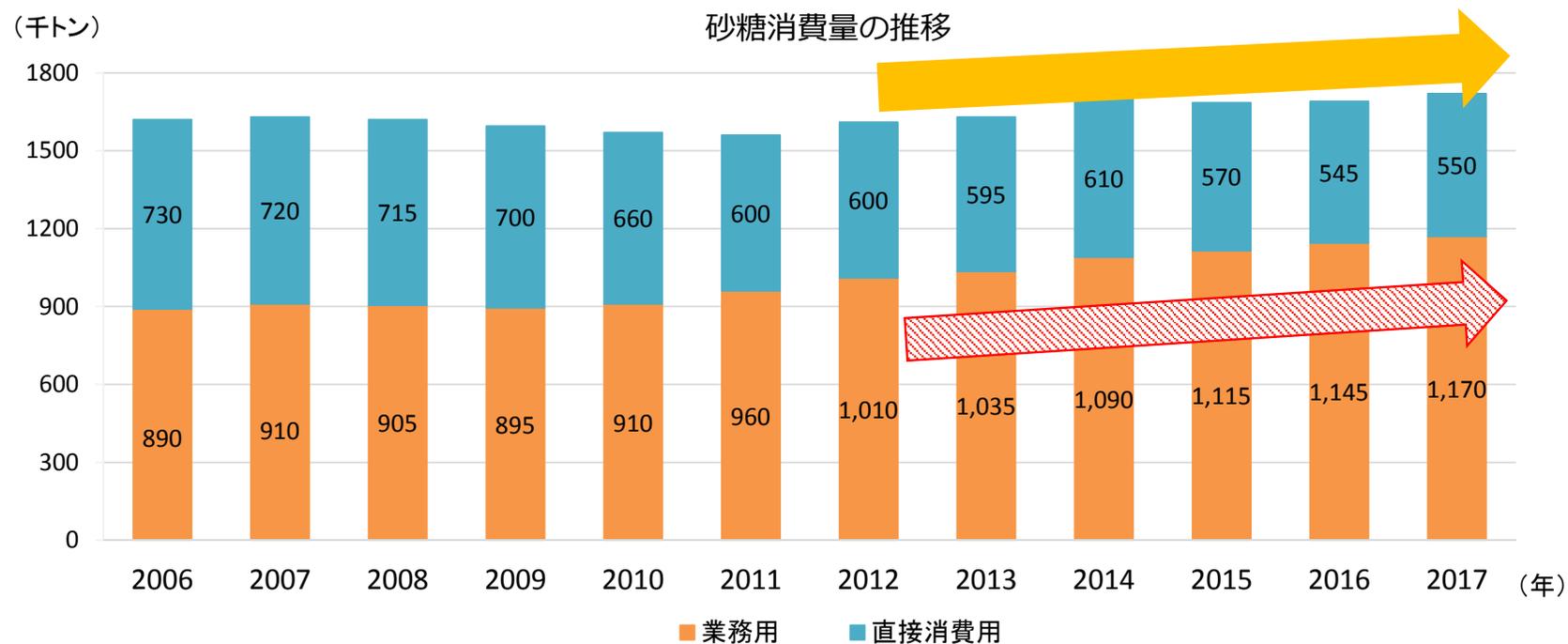


資料：C E F Sおよび欧州委員会の資料を基に機構作成

## 砂糖の需給動向②（消費量）



2012年以降、増加傾向 ⇒ **加工品の需要増加**に伴い、直接消費用の減少が続く一方、**業務用が増加**  
(業務用の内訳) : 清涼飲料水(約5割)、焼き菓子(10~13%)、チョコレート(13%)など



# 砂糖の需給動向③（輸出入）



## 輸出量

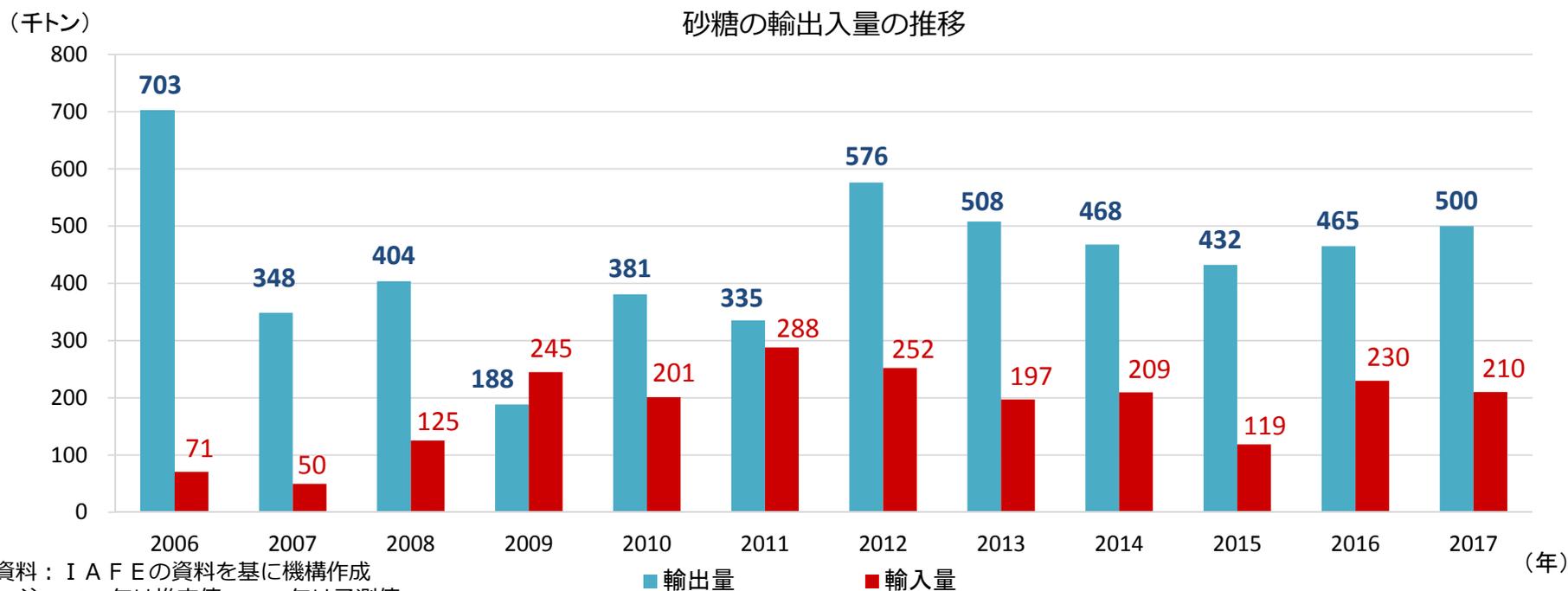
砂糖生産量の増加・国際砂糖価格の上昇 ⇒ 近年は40万～50万トン台で推移

主な輸出先国：（域内）ドイツ、リトアニア、ラトビア（域外）イスラエル、レバノン、ロシア、ジョージア

## 輸入量

季節によって変動、おおむね20～25万トン台で推移

主な輸入先国：（域内）ドイツ、スウェーデン、リトアニア（域外）ジンバブエ、モザンビーク、スーダン



資料：I A F Eの資料を基に機構作成  
注：2016年は推定値、2017年は予測値。

# 砂糖関連政策①



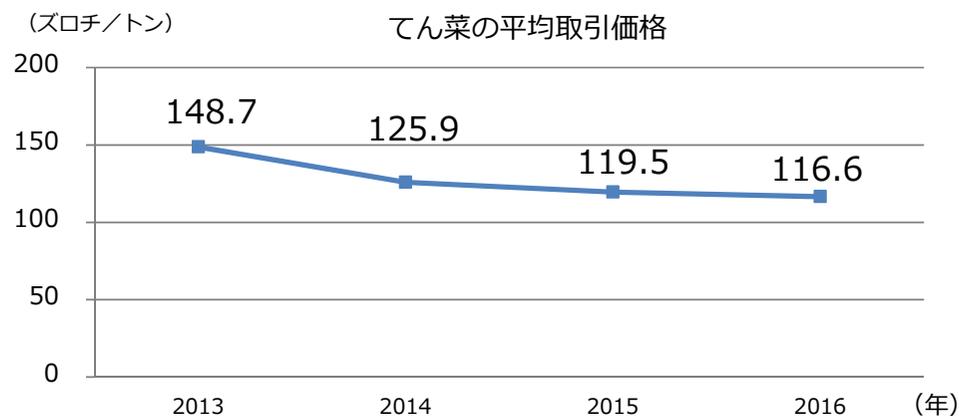
## てん菜取引価格

- 生産割当廃止に伴い、最低取引価格（26.29ユーロ）も廃止  
⇒国際砂糖市場の相場の影響を大きく受ける

2017年4月、全国てん菜生産者協会とポーランド製糖事業者協会は「**全ポーランド製糖業界協定**」を締結  
⇒てん菜取引価格は製糖企業ごとに設定可能

①最低取引価格設定による価格保証、②砂糖の国際市場価格との変動制、③二者（①or②）選択型など

- 2017/18年度の平均取引価格は  
前年度と同水準の同115～118ズロチ  
（3795～3894円）の見込み



資料：IAFEの資料を基に機構作成

## 砂糖関連政策②



### 任意カップル支払い

#### ➤ ポーランドの砂糖産業：伝統的な基幹産業として位置付け

- 2015～2019年の予算：年間約8100万～8300万ユーロ（107億7300万～110億3900万円）
- 2016年は予算8160万ユーロ（108億5280万円）を生産割当用のてん菜の栽培面積に応じて支払い  
…生産者の経営安定の支え
- 生産割当廃止後は、実栽培面積に基づき算出⇒**支払い単価が減額する見込み**

ポーランドの任意カップル支払い額

(単位：ズロチ)

年	2015	2016	2017
1 ha当たりの支払い額	2138.45	1952.25	1502.21

資料：欧州委員会および I A F E の資料を基に機構作成  
注：2017年は試算値。

2017年は、予算額（8200万ユーロ）が  
実栽培面積（22万ヘクタール）に  
割り当てられるため、単価は減少

# 生産割当廃止後の需給見通し（2017/18年度）

## 生産量

てん菜栽培面積の増加に伴い、砂糖生産量もわずかに増加の約210万トンを見込む

## 輸出量

2016/17年度から続く増産により、前年度比7.5%増の50万トンを見込む

## 輸入量

増産に伴い、同8.7%減の21万トンを見込む

## → 中期的な需給見通しは砂糖価格の動向次第

てん菜生産および砂糖需給の見通し

年度	2016/17	2017/18	2020/21		
			予測① 砂糖価格が2015/16年度 と同水準の場合	予測② 砂糖価格が下落した場合	予測③ 砂糖価格が上昇した場合
砂糖の国際価格 (ユーロ/トン)	—	—	350	250	500
てん菜栽培面積(千ha)	206	220	190	140	220
単収(トン/1ha)	66	63	63	63	63
砂糖生産量(千トン)	2,041	2,100	1,800	1,350	2,100
砂糖消費量(千トン)	1,720	1,720	1,750	1,750	1,750
輸出量(千トン)	465	500	-	100	500
輸入量(千トン)	230	210	300	500	200

資料：IAFEの資料を基に機構作成

# 菓子類の輸出入動向



## 菓子類

長年にわたって増加傾向で推移

近年は輸出量が顕著に増加⇒2016年は前年比6.2%増、貿易収支は黒字

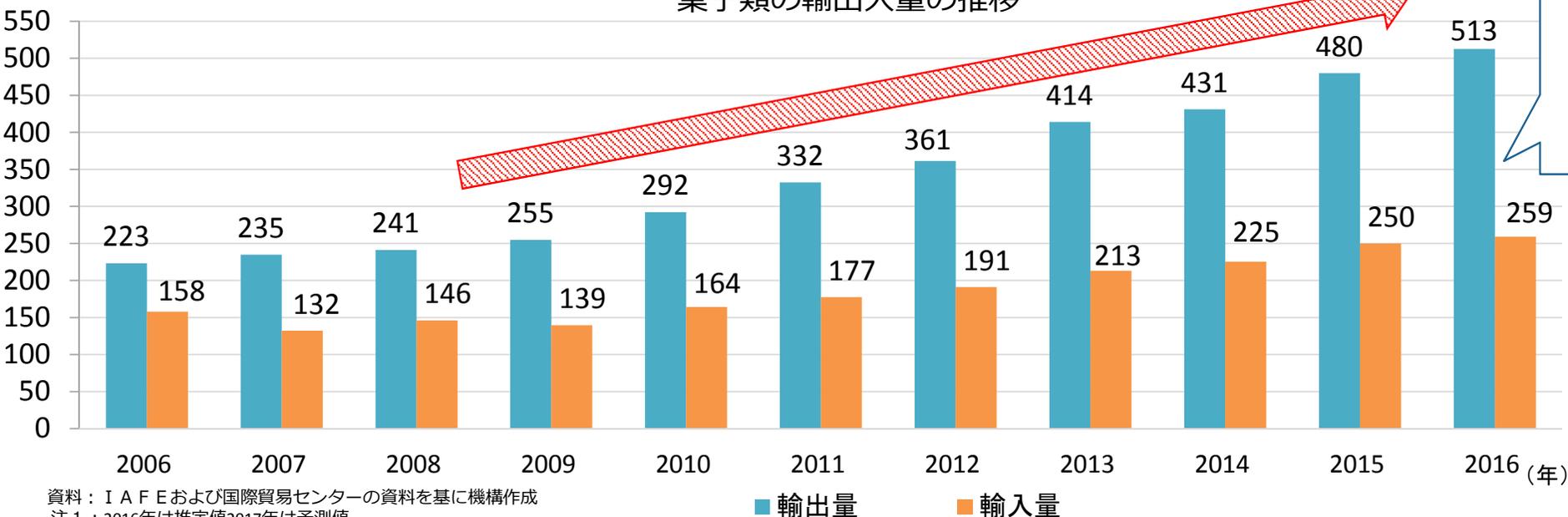
## 菓子業界

生産割当廃止により砂糖の国内生産量が増加⇒国内砂糖価格が国際価格に近づく

➡ 価格競争力の高い商品の生産が可能・輸出拡大

(千トン)

菓子類の輸出入量の推移



2016年の黒字額は  
11億7730万ユーロ  
(1565億8090万円)

資料：I A F Eおよび国際貿易センターの資料を基に機構作成

注1：2016年は推定値2017年は予測値。

注2：HSコード1704（ココアを含まない製品）、1806（ココアを含む製品）、1905.20、1905.31（ジンジャーブレッド類とスイートビスケット）の数値。

# 業界の動き



## 製糖企業

- 生産の効率化（生産割当廃止を見据え、2013年ごろから実施）
  - 貯蔵タンクなどへの設備投資による生産能力の増強
  - 契約圃場を工場近郊に集約化⇒輸送費の削減
- 工場の操業期間の延長（100日→120日以上へ）⇒より多くの砂糖生産が可能
- 輸出拡大のための輸出ターミナルの新設を計画（KSC社）



K S C社 Dobrzelin工場（手前の赤い屋根の建物は事務所棟、170年前に設立された同国で最も歴史のある製糖工場）



K S C社 Dobrzelin工場の砂糖サイロ（保管能力5万トン、同工場の2016/17年度の砂糖生産量7万5000トン）

# 生産者による生産性向上のための取り組み



## 生産概要

- ▶ ワルシャワから西方へ約50キロメートル離れたカシエベコロニアでてん菜を生産（約20ヘクタール）
- ▶ 小麦（約15ヘクタール）・トウモロコシ（約40ヘクタール）との輪作
- ▶ 収穫を製糖企業が行う以外、全て自己所有の機械で父と子の3世代で作業

## 取り組み

- ▶ 緑肥としてシロガラシを植え付け、土壌改良に取り組む
- ▶ 高収量で耐病性の強い品種を選択  
（KWS社、SES Vander Have N.V./S.A.社、KHBC社（ポーランド））
- ▶ 褐斑病や萎黄病の被害が多く、毎年薬剤の種類を変えて防除

## 生産割当廃止後（2017/18年度）の見通し

- ▶ 他作物に比べ価格が保証されているてん菜の栽培面積を拡大⇒増産
- ▶ 取引価格の下落を懸念 ⇒生産割当の廃止を契機とした増産の計画は無い
- ▶ EU域内の主要生産国が競合する  
⇒今まで守られてきたEU砂糖市場の安定性が失われると危惧



てん菜協会会長 クシエトフ・ニキエル氏  
（機械導入に当たって、EUから補助を受けている）



播種後2カ月経過したてん菜圃場  
畝幅45センチメートル程度、株間18センチメートル程度に播種

# 4 糖類を含む飲料に対する課税

# WHOによる糖類摂取に関する発表とその影響

・2015年3月、糖類<sup>(注1)</sup>の摂取量に関する新指針  
「Guideline: Sugars intake for adults and children」を発表

## 従前

成人および子供の非感染性疾患<sup>(注2)</sup>のリスク低減（特に肥満と虫歯予防）のため生涯を通じて

- ① 糖類摂取量を削減すること
- ② 成人と子供の両方において糖類摂取量を摂取エネルギー全体の10%未満にすることを強く推奨

## 新指針

更なる健康増進効果があるとして、

- ③ 糖類摂取量を摂取エネルギー全体の5%未満にすることを条件付き<sup>(注3)</sup>で推奨

・2016年10月、糖類を含む飲料への課税が非感染症疾患の予防に効果的であるとする報告書  
「Fiscal Policies for Diet and Prevention of Noncommunicable Diseases」を発表

➡ 小売価格が20%以上上昇すれば、同率程度の当該飲料の消費量を抑制できると報告

(注1) 原文では「free sugars」。食品や飲料の製造過程で添加された砂糖、異性化糖の他、ハチミツや果汁などに含まれる果糖やブドウ糖なども含まれると定義。

(注2) 心臓血管病、がん、慢性肺疾患、糖尿病などの総称。WHOによれば、非感染性疾患が世界の死因の68%を占める（2012年）。

(注3) 推奨に従った場合のメリットとデメリットのバランスが不明確で、政策への適用に当たっては、十分な議論やさまざまな立場の利害関係者の関与が必要。

# 欧州清涼飲料水協会 (UNESDA) の声明

- 欧州委員会や関係団体は2016年2月、2020年までに食品に添加される糖類を2015年末比で最低10%削減する目標を採択

## UNESDA

- 清涼飲料水からの糖類摂取抑制に向けて取り組む声明を発表
- 糖類を含む飲料への課税について、拡大を懸念し以下の通り非難
  - **雇用や投資の減少**を引き起こし、**経済に打撃**
  - 清涼飲料水への課税を導入した国で、  
課税対象外の糖類を含む製品やアルコール飲料の消費が増加  
⇒ **課税は健康増進に向けた根本的な解決となっていない**
  - 糖類を含む飲料への課税や糖類摂取抑制の取り組みが国によって異なる  
⇒ **E U 単一市場 (CMO) の円滑な商品の流通や投資を阻害**



清涼飲料水からの糖類摂取抑制に向けた取り組みのPR

# E Uにおける課税導入の動き

近年の主な糖類を含む飲料などに対する課税導入の動き

	対象	税率（2017年現在）	導入時期
ハンガリー	糖類を含む飲料	100ミリリットル当たり8グラム未満： 1リットル当たり0.0165ユーロ（2円）	2011年
		100ミリリットル当たり8グラム以上： 1リットル当たり0.0231ユーロ（3円）	
	糖類を含む濃縮液から製造される飲料 エナジードリンク	1リットル当たり0.66ユーロ（88円） 1リットル当たり0.81ユーロ（108円）	
フィンランド	糖類を含む菓子類 （菓子やアイスクリーム）	1キログラム当たり0.95ユーロ（126円）	2011年 （2017年廃止）
	糖類を含む飲料	糖類含有率が0.5%未満： 1リットル当たり0.11ユーロ（15円） 糖類含有率が0.5%以上： 1リットル当たり0.22ユーロ（29円）	2011年
フランス	糖類を含む飲料（乳飲料やスープなどを除く）	1リットル当たり0.0753ユーロ（10円）	2012年
ベルギー	糖類を含む飲料	1リットル当たり0.068ユーロ（9円）	2015年
ポルトガル	糖類を含む飲料 （乳飲料や果汁飲料などを除く）	100ミリリットル当たり8グラム未満： 1リットル当たり0.0822ユーロ（11円）	2017年2月
		100ミリリットル当たり8グラム以上： 1リットル当たり0.1646ユーロ（22円）	
カタルーニャ （スペイン）	糖類を含む飲料 （乳飲料や果汁飲料などを除く）	100ミリリットル当たり5グラム以上8グラム未満： 1リットル当たり0.08ユーロ（11円）	2017年5月
		100ミリリットル当たり8グラム以上： 1リットル当たり0.12ユーロ（16円）	
英国	糖類を含む飲料 （乳飲料や果汁飲料などを除く）	100ミリリットル当たり5グラム以上8グラム未満： 1リットル当たり0.18ポンド（28円）	2018年4月 （予定）
アイルランド		100ミリリットル当たり8グラム以上： 1リットル当たり0.3ユーロ（40円）	

資料：LMC Internationalの資料や現地報道などを基に、機構作成  
注：為替レートは、2018年2月末日TTS相場を使用。

## 5 まとめ

- E Uの2017/18年度砂糖需給は、**生産・輸出ともに大幅増の見込み**
- ポーランドは生産コストの低減・生産の効率化により、価格競争力の高い砂糖を生産しながら、**菓子類などの輸出拡大の余地**
- 生産割当廃止を迎え、増産・輸出増に向けた取り組みもみられる中、**価格下落を不安視**するなど慎重な意見も
- 糖類を含む飲料への課税進展や国際相場の動向がE Uひいては、世界の砂糖需給に与える影響に注目

変革期にあるE Uの砂糖産業の動向に引き続き注視が必要



# ご静聴ありがとうございました。

【参考】砂糖類・でん粉情報 2017年12月号「生産割当廃止を迎えたEUの砂糖および異性化糖産業の動向」、  
同2018年1月号「ポーランドの砂糖産業の動向～EUの砂糖生産割当廃止の影響を中心に～」

本情報は、情報提供を目的とするものであり、取引・投資判断の基礎とすることを目的としていません。本資料の正確性の確認等は、各個人の責任と判断でお願いします。提供した情報の利用に関連して、万一不利益が被る事態が生じたとしても、alicは一切の責任を負いません。